NO.035

ＦＡＳ通信

平成１８年３月号

株式会社福地建装
北斗市中野通３２４番地
TEL0138-73-5558

◆◇　日本の気候風土には茅葺屋根の思想を　◇◆

建設白書によると日本の住宅平均寿命は僅か 30 年という事ですが、住宅金融公庫から融資を受けた家の建て替え平均年数は何と 26 年という事です。先進諸国ではとても考えられない短い寿命ですが、実態を調査すれば 30 年で家が朽ち果てるのでは決してありません。つまり、住んでいる居住者が 30 年以上その家に住み続けようという意欲を逸してしまい、叩き潰しているのが実態なのです。

日本の家屋は昔から 30 年程度の寿命であったはずなどありません。日本で昔に建てられていた一般家屋の多くが茅葺屋根で造られていた時代がありました。

現在でも世界遺産に登録されている茅葺屋根家屋の集落があります。茅葺屋根の家屋は、夏の高温多湿、冬の低温乾燥となる日本の気候にフィットさせるように、1,000 年以上もの期間を経ながら先人達の知恵と工夫、経験と技術が結集したものであると言えるでしょう。

茅葺屋根は大きな断熱性能を持ち合わせているものと思っておりましたが、実際にその断熱性能を詳細に調査してみたら断熱性能など殆ど持ち合わせておりませんでした。

■茅葺屋根は膨大な貯水装置

あの分厚い茅葺屋根は断熱性能を目的としたものではなく、大量の雨水を屋根に蓄えるものだったのです。よく調査してみますと驚くべき神秘的な性能が潜在していました。

雨水を茅葺屋根に溜めると言っても、その水を水不足の時に活用するためなどでは勿論ありません。夏場の高温多湿の季節には、この高温と日射熱で屋根に蓄えた雨水を蒸発させ、蒸発する際に家屋内の熱も放出します。
これは蒸発潜熱と言いますが、例えば唾を手の甲に塗りますと体温と同じ温度なのにも関わらず、冷やっとした感じが致します。液体が気体に変わる時に周辺の熱を奪いますが、高温や日射熱が逆に家屋内の熱を奪い、同時にそこに居る人の身体からも水分を奪い体温を下げるメカニズムが働いていたのです。究極の自然冷房装置の役割を果たします。

空気を冷やして身体に当てる冷房と異なり、家屋内の熱全体が均一に放出されて一緒に住む人の水分と一緒に体温まで放出してくれるのです。

まさに木陰に入ったような清涼感を与えてくれますので、是非機会があったら体感をしてみてください。

■真冬も暖かい茅葺の家

「夏を良しとすべし日本の家屋」と言う詩があるように、本州では夏さえ快適に過ごせば冬の寒さなど我慢できる範囲だと言う意味だと思います。これは、茅葺屋根から瓦(かわら)葺屋根に進んだ時代に謳われたものと思われます。

冬の低温乾燥時には、乾燥によって住む人の身体から激しく水分を蒸発して体温を奪うのです。乾燥時期には気温以上に寒く感じるのはこのためで、茅葺屋根の蓄えた雨水の湿気（潜熱）を家屋内に供給し、私達の身体から水分の蒸発を防ぎ、同時に冬の寒さを防ぐ役割を果たしていたのです。

したがって茅葺屋根の家は氷点下になる北海道から湿気の多い日本海側、乾燥時期の長い太平洋側、温暖地の瀬戸内や四国、九州など全く気候風土の異なる日本全国、至る所に建築されていました。

雪の積もる寒冷地では雪が茅葺屋根の上に積もりますが、この雪が断熱材の役割を果たします。湿気の多い日本海側においては茅葺屋根が湿度調整を行います。乾燥時期の長い太平洋側では、家屋内に湿気を補給する役割を担っていました。温熱環境上、茅葺屋根は日本各地の気候にフィットしていたのです。

「ファースの家」はこの茅葺屋根の思想を現在の家づくりに具現化したもので、あらゆる部分に反映されております。

幸の知恵袋

茶がら利用術

乾かした茶がらには、臭いを吸いとりやすい性質があるから消臭剤として利用できるんだよ。

だから、茶がらを乾燥させて灰皿の上などに盛って燃やすと部屋のにおい消しになるんだ。それに、燃やさなくても冷蔵庫に入れたり、タンスに入れても消臭剤として役に立つんだよ。なかでも、ほうじ茶や番茶を炒ったものは、香ばしいかおりが強いから悪臭を緩和してくれるんだ。

他にも、乾燥させた茶がらを木綿の袋などに入れて入浴剤として使うことも出来るんだ。この場合は、お茶の臭いを楽しむだけじゃなくて、手足の角質化を和らげて色白にしたり、体を芯から温める効果があるんだよ。ただし、白い物は染まりやすいから、残り湯を洗濯に使うのはやめたほうがいいよ。